

日野稲門会報

第 8 号

日野稲門会局
事務局

清水方
日野市豊田4-37-12-701
☎042-586-7798

ご挨拶

日野稲門会々長 千田 吉郎



早稲田大学をめざす為には、人的にも物的にも充実させなければならぬ、その為にもOBの方々の大なるご協力をお願い致したいという訳です。

次に、平成十一年度の三多摩稲門連合会が八王子早稲田会と日野稲門会が合同で実施する事に決定しております。

昨日、右田八王子早稲田会長と相談致しました処、場所は八王子市で実施しますが、期日は総長の来年の日程に重ならないように秘書課長口元氏に至急送るようお願いしておきました。近い内に具体的に場所・期日・費用・式次第等を決定する事になるでしょう。

八王子早稲田会は、昭和三年に創立され、多摩地区では一番古い会でございます。前会長の齋藤芳孝氏は大変に熱心な御方でしたが平成十年五月御逝去されました。本会におきましては功労者と云っても過言ではないと思

います。古い会員の先輩方はご存知でしょうが齋藤氏は、中央大学が八王子市に移転した際、親善試合やりましたと早稲田大学硬式野球部と交渉し、八王子市菅富士森球場で行い、勿論早稲田が優勝しましたが、終了後小

杉会館で親睦会があり、自己紹介があり、日野の千田ですと云うと齋藤氏と山田弁護士が

参りまして日野稲門会を作って早稲田大学創立百年祭があるから応援しようではないか、と云う訳で山田君と急遽名簿作成に取掛かっ

た訳です。丁度昭和四十四年度版の名簿の中

から家内に頼んで、日野市在住の卒業生を書き出してもらい、その他校友会に連絡して校友会に入会している方、並びに在住している

方のコピーを送って頂き、原稿を作成して発送にこぎつけたのは、昭和五十六年六月であります。四百五十名の校友を確認出来、内心

山田君及び家内に感激して、一段落つきまして、校友会及び近在の稲門会にお送り出来ました。

その後、二・三回発行致しましたが若いOBはお務めが忙しい事もあり、総会には三〇名前後であります。ご参加を待っております。

二〇〇七年には早稲田大学創立百二十五周年になります。校友会本部に於いても種々會員を集める計画をしているだろうと思

います。百二十五周年記念までに十五万人の校友会員が登録出来るような方針をお互いに見を交換して盛大な記念式典と記念事業を完成出来る事を望んで止みません。

諸先輩の御健勝をお祈り申し上げますと共に総会でお会い出来る事を楽しみにしております。

わたしの稲門会

卒業してから約四〇年経って、益々稲門とのかかわりあいが多くなっている。

まずは「日野稲門会」石川貞三先輩を中心

に中西摩可比氏、山本栄道氏等と、月一程度の山行を重ねている。最近では七月八日、五

名で奥多摩の天地山へ登って来た。このメンバーが日野稲門会ハイキング会の中核となっている。

ついで、「早大学院二六会」これは昭和二十六年卒業の同期会である。三年F組の世話人を努めている。七月二三日に大隈会館での役員会で今秋の大会の計画を練った。約百二十

名の参加予想をしている。当時の学院は木造二階建てで、現文学部の戸山校舎の場所にあ

った。新制早大学院の創立時であり、全国からハミダシ高校生が集まり、敗戦数年後の焼

跡の残る新宿で悪遊びをしたものである。大学では「卓友会」会合の案内板に早友会

とかかれたり、麻雀の会、卓球の会等に勘違いされる名称であるが、これは商学部のゼミ

の会。ゼミの科目は「社会保障論」、教授が「佐口 卓」で、会の名前のよところ。構

成は七〇才直前から現役ゼミ学生に涉り、新年会、定例会、隔年ぐらゐの一泊旅行と、活

発に会合を重ねており、ここでも私は世話人を引受けている。九年三月には元東北放送の

を引受けている。九年三月には元東北放送の

先輩、天野氏の引きで、佐口御夫婦を中心に仙台旅行を実施した。松島味覚所田里津庵での昼食は、格調の建物、眺望、味覚の三拍子そろった。宿は秋保、一同青春にもどり夜半まで語りはつきず、特に現任のゼミ教授土田氏とジャーナリスト菊地氏の激論はゼミの雰囲気そのまま、「早大学生の就職事情と大学側の姿勢」が論題だった。あくる日、秋保工芸の里を尋ね、江戸独楽を記念品として頂戴した。今年の六月七日、大隈会館での定例会では現役ゼミ学生七名を招待し大盛会であった。これからも命ある限り早稲田を愛し、「都の西北」に関わり続けて行きたいと思う。

「母校の角にたちて」 会津八一

たちいでて 戸山ヶ原の芝草に

かたりしともは ありやあらずや

(30・商) 木村 三郎

フランススワールドカップ

アルゼンチン戦

ツアーに参加

例のチケット騒動に巻き込まれ、見通しがたないままパリに旅立つてしまった。旅行社が行ったチケットの抽選には残念ながらもずれたのでパリに残り、市長舎前の公設の大

画面で応援した。

学校の校庭くらいスペースに大画面が設置され、画面の前に日本人サポーター、その右にアルゼンチンサポ、周りをフランス人や他の外国人が囲むように試合を見ていた。音声は競技場の音声が流れ、なかなかの臨場感。前半はみな座って静かに画面を見入っている。大半の日本人はトゥルーズに行つてしまったのか、パリの日本人は少ない。

人ごみの中心にかなり派手ななりをした日本人の男の子が一人で応援していた。私は、応援用の青ビニをもっていたことに気づき、「使いますか。」

と、男の子に声をかけたら、それなんですかと云われびっくり。後から聞けばパリ在住の日本人とか。日本で青ビニールで応援しているのも知らなかったそうだ。

青ビニが登場して、私もちょうどいと騒ぎになり、日本人サポーター30人程が集まつてにわかにウルTRAS・ニッポンが結成された。ニッポンコール、ヨシカツ、平野コール。突然の応援団の登場でパリの人たちも大喜び。

ニッポンコールが流れると今度はとりのアルゼンチンサポのコール。TVカメラがその様子を追う。大半のパリの人たちは日本に好意的で日本のチャンスになると、アレ、アレと大きな声援を送ってくれた。

試合はご存知の通り1-0で負け。でも終

わった後は、日本人、フランス人、アルゼンチンの人といり乱れて記念撮影。知らない者同志がこんなに和気あいあいとできたのもサッカーワールドカップならではのことだろう。今回の旅行ではフランスの人にとっても親切にしてもらいました。四年後、今度は我々がお返しをする番です。

(58・教) 阿部 雅子

私のライフワーク

昭和十三年に早稲田を卒業、浅野系の建設会社に就職、戦争間近の各地の軍需工場の建設に従事して居ましたが、父が亡くなり年老的母と暮らす為同社をやめ東京の西村建築事務所に入所しました。そして現場監理員として日野にある日野重工の現場に勤務、工事が完了して会社発足に際し管轄係に招かれ入社しましたが終戦で同社は解散、前の西村建築事務所の所長の紹介で読売新聞社に入社。同社の戦災復興工事を担当しました。昭和二十六年正力松太郎社主がテレビの会社をつくるに際し創立事務所の一員として日本テレビに出向、放送開始して軌道にのるまでしばらく二番町の方へ勤務しました。

昭和三十年頃、有楽町別館「旧報知新聞ビル」を取壊し新たに「読売会館」を建設する

事になり、その関係業者の設計担当者合計二十数名を一室に集め、私が幹事役として設計に約一年間かけ現在の「読売ホール」と「そごう」デパートが完成しました。又、三十八年頃「読売ランド」建設の際も度々正力さんから呼出しを受けて着工後も何度か現場を見に参りました。

以上の他、北海道支社(三十三年)、北陸支社(三十五年)、第二別館(三十六年)等の新築工事があり読売の躍進に伴い支社支局の工事も数多く多忙を極めました。張り合いのあるものでした。

私の最後の仕事はそれまで銀座にあった読売本社を大手町に移転する仕事です。計画案は三十八年に始まり最終案は四十三年、実際の工事は四十四年八月から四十六年十月、二年二ヶ月かかった大工事でしたが設計監理の三菱地所施工業者の大成建設、清水建設、それに読売の三者の協力よろしく大過なく完成しました。

私は四十七年八月、四年の定年延長で退社しましたが発展著しい読売新聞社のお陰で多彩な建築に携わることが出来、大変幸せに思っています。

(13・建) 浦田 好雄



「賀状版画」に想う

初めて彫刻刀を手にしたのは小学校5・6年生の図工の授業であった。版木と言っても大工さんから分けて貰った板の切れ端。この版木に動物や野の花を彫り、版画を製作した。肝心な箇所を切り落とす失敗や、手に切り傷を負ったりしながらも「木」を彫る時の快い感触と香り、彫りあがった版木に着色、紙をのせ「ばれん」で摺り、果たしてどんな絵が刷られるのだろうかとの期待と不安を抱きながら紙を剥す時の心のトキメキ、版画独特の色彩、画用紙に絵の具で直接表す「描画」とは異なった魅力を「版画」から感じとっておりました。

この頃から「お年玉付き年賀ハガキ」が発売され、版促の一環から郵政省主催の「全日本年賀状版画コンクール」が毎年催されるようになり、その入賞作品が日本橋の三越デパートに展示されました。全国から集まった色々の素材、形式によって創作された数々の「賀状版画」に目をみはり、その幅の広さと奥の深さに感動した事が懐かしく思い出されます。

その様な事が動機となり、年に一度の便りの年賀状は「版画」で制作しております。年末が近づくと「版画」の題材を考え、スケッチし、版木を彫り、絵具を使い版画を摺る。

12月を迎えると仕事と此れ等のスケジュールに追い立てられながら完成するのはいつも年の瀬も押し詰ってからである。こんな忙しい思いをしながらも続けていられるのは、この制作の過程に「知人」「友人」等の一年間の思いと、新年への希望が走馬灯のように脳裏をかすめ、心を潤してくれるからでありましょう。

「賀状版画」を主に20年近く付き合ってきた「版木」と「ノミ」と「絵具」を友として、これからは数は少ないながらも制作を続けてゆきたいと思っております。

(36・建) 菅沼 康光

4回目の ホールインワン

日野稲門会報第六号(平成八年十月発行)にて三回目の報告をしました。それから約二年後の平成九年八月四回目を達成しました。山梨県一宮のウッドストックカントリークラブの一七番一二五ヤード、八番アイアンによるものでした。

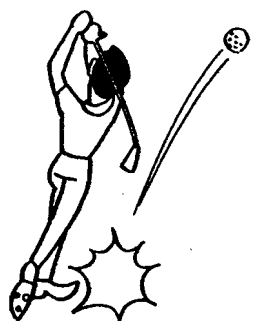
その後前立腺を病み十二月手術、年明けクラブを手にしたところ、自己流で二十数年、力まかせのスイングではどうにもならない状況となつてしまいました。

目標を定めて練習場に行つては挫折の日々でしたが、ある日先輩方から指摘をうけ目の醒める思いがしました。ここ一か月程猛練習を重ねにつこりしたところ指と手首が腱鞘炎といやはやとんだ毎日です。

日野稲門会ゴルフ同好会は会員三十二名、四月の第一回に引き続いて第二回を来る九月十一日G M G八王子ゴルフ場で行います。参加者は十四名であります。私も日頃の成果を発揮したいと楽しみにしております。尚ウッドストックはセルフコースのため保険は適用無く残念でした。

年二回の親睦コンペを計画しておりますので多数のご参加をお待ちしております。

(23・専政) 森田 治夫



ハイキング会

三頭山、蔵山、笹尾根と続けて来ましたが、本年度は、何かと事情が有り、又天候も不順が続き、年3〜4回の予定が、鷹取山のみで終ってしまいました。

昨年9月21日、JR藤野駅北側に連なる400m前後の尾根歩きだが、案内書によると仕事道が多く地図読みをするには良い山との事で、過去2回程、藤野から歩いた事があった。鷹取山迄は半日コースで有り、確かに枝分かれの道は多いが忠実に尾根を外さなければ、手軽なハイキングコースで有る。

眺望は藤野の近く迄来ないとないたので、今回は楽しみを後に残して逆コースを取ることにした。

JR上野原駅井戸行きバスに乗り沢井入口下車100m程進むと右手に登山口がある。1時間足らずで山頂に着くが、途中黄色の服を着たクモが何重にも網をはって居り今日は誰も登っていない様だ。

山頂は展望はなく、鷹取山のろし台跡と真新しい道標があり標高472mの三角点標石が有るのみだ。本日の最高点である。此からはピークをいくつか越えるにしても藤野にむかって下るのみである。処が枝尾根に2度返りも踏み込み引き返す羽目になり、下りの難しさを改めて知らされた。

岩戸山377mを過ぎてから最後の楽しみとして取って置いた本日唯一の眺望は、眼下に相模湖を望み、南から南西にかけて道志の山々、その奥に西丹沢の山脈を遠望し、のんびりと楽しい一日ハイク過ごして参りました。皆様の多数のご参加をお待ちいたします。

(32・商) 山本 栄道

祝平成10年10月創立70周年記念

早稲田大学坪内博士記念

演劇博物館

GUIDE TO THE TSUBOUCHI MEMORIAL THEATRE MUSEUM

Waseda University



総会・懇親会 のお知らせ

(第一部) 総会

日時 98年10月31日(土) 11時30分から

受付は11時から

場所 杏花飯店

(JR豊田駅北口京王ファミーユ3F)

会費 7千円(年会費は別に2千円です)

(第二部) 講演会(12時から)

講演 早稲田大学の近況について

講師 今井 半

(第三部) 懇親会(1時から)

※なお、98年度の年会費のお振込はお早めをお願いします。

(事務局)